



識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする新連載。第9回はドイツのゴルフのお話です。

ドイツでは公式ハンデか ライセンスがプレーに必要。

「全米オープン」のビッグタイトルを獲得し表舞台に戻ってきたマーティン・カイマーですが、彼の出身地、ドイツのゴルフ事情についてはあまり耳にすることがありません。

欧州だと、スコットランドを始め英国、アイルランドや観光で有名なスペインのゴルフ場は日本人にも比較的なじみがあるかと思いますが、ヨーロッパ・ツアーでも「BMWインターナショナルオープン」が唯一のドイツ開催大会です。やはりドイツのスポーツというワールドカップ優勝やブンデスリーガなど、サッカーのイメージが強いですよね。

ドイツ国内には約600のゴルフ場があり、メンバー数が30万人程いるそうです。80年代から90年代にかけてのベルンハルト・ランガーの活躍などが呼び水となつて、ゴルフ場の70%近くが90年代以降に作られました。ドイツにはゴルフのプロショップもありますが、人口8000万人に対して30万人のゴルフ人口という少々寂しい数字です。それにはドイツ独特のゴルフ文化が影響しているのかもしれない。実は彼らがゴルフ場でプレーするにはオフィシャルのハンディキャップかPlatzreife（プラッツライフェ）と呼ばれるライセンスを取らなければならない、少し厄介な仕組みがあるのです。

ライセンスは筆記と スコア108が条件。

ライセンス取得に一番の近道は、各地で開催されるスクールに入校することですが、3〜5日の日数に加え、かなりの費用もかかるようです。このゴルフ・ラ

イセンスの試験では実技とルールやエチケットなどの筆記試験の2つをクリアする必要があります。実技試験はドライバークラッシュやパットなど基本が問われ、合格ラインは18ホールで108ストロークですから、ハンデ36ということですね。筆記試験も30問のうち24問正解でクリアだそうです。ちゃんとルールブックを読んで理解すればパスできる簡単な試験であっても、それが義務付けられている所はドイツらしいですね。6〜9月にアイルランドでゴルフをすると、無名のゴルフ場にも関わらず多くのドイツ人プレーヤーが訪れていてビックリします。これはホリデーでゴルフを楽しむだけでなく、年会費を払い、そのゴルフ場のメンバーになり、ハンディキャップを申請してその証明書を貰う目的で来ているゴルファーが多いからなのです。一石二鳥と言えるようなこのシステムも欧州全域をカバーしているヨーロッパ・ゴルフアソシエーション（EGA）のハンディキャップシステムがあるから成り立ち、いわば裏口でライセンスを取るようなモノです。アイルランドの

Vol.9

ドイツの
ゴルフ事情

ルールやマナーを 成熟させる ドイツの変わった ライセンス制度。



ゴルフ場にとっては良いビジネスのようで、ドイツ人スタッフも重宝されているのだとか……。

我々外国人がドイツでプレーをする場合には同様のライセンスを取得する必要がありますが、有名ゴルフ場だと日本のJGAや県のゴルフ連盟が発行しているハンディキャップの証明書を持参する必要があります。私はすっかり忘れていたメンバーの方が一筆書いてくれたことなきを得ました。

沢山の方がゴルフを楽しむのは良いことですが、長く付き合うためにはドイツのように最低限のルールやマナーを理解した上でラウンドをする事も大切ですよ。ラウンド中キャディさんにトラブル時のボールの扱いを聞くようでは恥ずかしいかも……。日本よりゴルフ人口の少ないドイツからランガーとカイマーと言う2名のメジャーチャンピオンを輩出しているのは、こういうライセンス制度も一役買っているのではないのでしょうか。日本も見習うべき所は多いかもしれません。

ゴルフビジネスの プロフェッショナル



神野方仁（じんの・みちひと）
1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外の様々なスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメ

ジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary
www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト／ソリマチアキラ